

【書き下し文】

高陽応將に室家を為らんとす。匠対へて曰はく、「未だ可ならざるなり。木尚ほ生なる者なり。塗を其の上に加へば、必ず將に撓まんとす。生を以て室を為らば、今は善しと雖も、後將に必ず敗れんとす」と。高陽応曰はく、「子の言に縁らば則ち室敗れざらん。木益枯るれば則ち勁し。塗益乾けば則ち輕し。益勁きを以て益輕きに任ぜば、則ち敗れず」と。匠人辭して對ふべき無く、令を受けて之を為る。室の始めて成るや善し。其の後果たして敗れたり。高陽応は小察を好んで大理に通ぜざるなり。

【現代語訳】

高陽応は家を作ろうとした。大工が答えて言うには「まだできません。木がまだ生乾きです。泥をその上に盛ったら必ずすぐにたわんでしまいます。生乾きのままで家を建てたら、今はよいとしても、後にはきつと家が壊れてしまうでしょう」と。高陽応が言うには、「あなたの言葉によると家が崩れることはないだろう。木は乾けばそれだけ強くなる。泥は乾けばそれだけ軽くなる。どんどん強くなるものが、どんどん軽くなるものを支えたら、家は崩れない」と。大工は断って返答をすることができず、命令を受けた通りに家を作った。家が出来上がったばかりはよかった。その後結局崩れてしまった。高陽応は屁理屈を好み、正しい道理を理解していなかったということだ。